

藤並の森

Vol.74

最初あまりかわいくないと言っていた
バムとケロがどうして20年間も読者の皆さん
に愛されているのか、正直なところ作者の私
にもよく分かりません。何年たつても変わら
ない、お気楽で平和な二人の暮らしつくりへ
の安心感でしょうか？それともバムとケロ
とその仲間たちがくり広げる小さな物語の中
には、かつて子どもだった大人や、今までに
その時代を過ごしている子どもたちの心に触
れる何かがあるのでしょうか？だとすると
その「何か」とは一体何なのか……？ うれ
しい謎は年を追うごとに深まるばかりです。

20年前は私がバムとケロの手を引いて歩い
ていたのに、いつの頃からか私の方が二人に
手を引かれて歩いていました。バムもケロも
あっちに行つたりこっちに行つたりでなかなか
前に進まないので、寄り道もまた楽し
いもの。これからどこへ向かつて歩いて行く
のかは分かりませんが、あの「何か」を探し
ながら、ゆっくりのんびり二人について行こ
うと思います。あの日から、そしてこれから
もずっとといっしょに。

初めての絵本『バムとケロのにちようび』
から、のろのろぼちぼち絵本を描き続けてい
たら、いつの間にか20年という長い月日が過
ぎていました。この20年間、絵本を描いてい
ない時でも何かしらバムとケロに関係する
仕事をしていたので、この原画展のために描
きおろした絵のタイトルのように、バムとケロ
とは絵本を書き始めた「あの日からずつといっ
しょ」に過ぎてきました。

当初あまりかわいくないと言われていた

バムとケロがどうして20年間も読者の皆さん
に愛されているのか、正直なところ作者の私
にもよく分かりません。何年たつても変わら
ない、お気楽で平和な二人の暮らしつくりへ
の安心感でしょうか？それともバムとケロ
とその仲間たちがくり広げる小さな物語の中
には、かつて子どもだった大人や、今までに
その時代を過ごしている子どもたちの心に触
れる何かがあるのでしょうか？だとすると
その「何か」とは一体何なのか……？ うれ
しい謎は年を追うごとに深まるばかりです。

(絵本作家)



▲「あの日からずつといっしょ」©Yuka Shimada/Ojigi Bunny Inc. 2014

リレー随筆

あの日からずつといっしょ——島田 ゆか

展覽會紹介
Exhibition

デビュー20周年記念 島田ゆか絵本原画展

平成28年
7月9日(土)

▼
9月19日(月・祝)

観覧料500円

絵本作家・島田ゆかさんは、シリーズ累計470万部の「バムとケロ」シリーズなど、魅力的な絵本を生み出しています。そんな島田さんの素敵な原画をご覧いただける展覧会を、高知で開催できることになりました。

見る人を魅了する島田さんの原画展が、いよいよはじまります！



▲島田さんのデビュー作
『バムとケロのにちようび』文溪堂／1994年

えたお話をもとに『バムとケロのにちようび』を1994年に出版したところ、世話好きの主人公の犬のバムとやんちゃなカエルのケロは、子どもから大人まで幅広い年齢層の心をとらえ人気者になりました。2001年からは、カナダのオンタリオ州に在住されています。



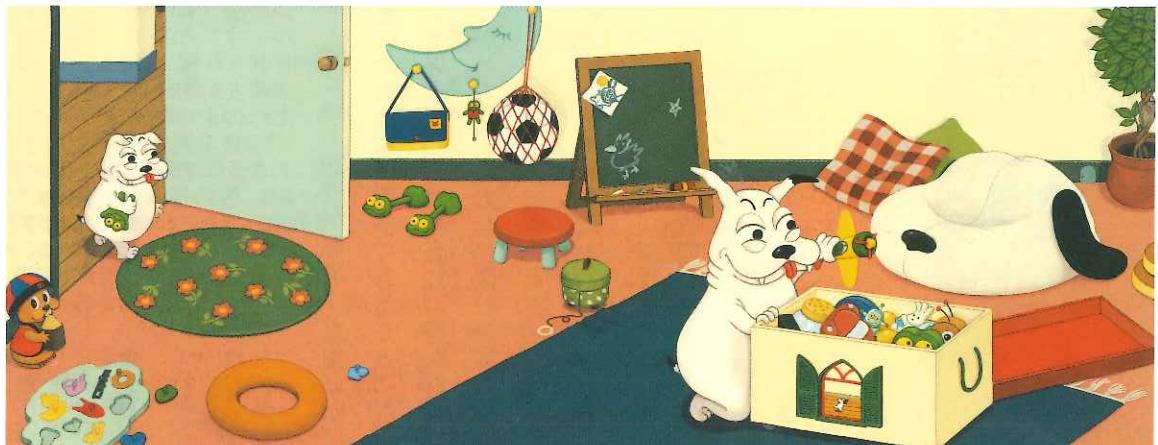
▲『バムとケロのもりのこや』文溪堂 © Yuka Shimada / Ojigi Bunny Inc. 2011

■ 島田さんの絵本の魅力

島田さんの作品は、人気の「バムとケロ」シリーズをはじめ、旅をするかばん屋の「ガラゴ」シリーズ、おにいちゃんがだいすきな子犬の「ぶーちゃん」と「おにいちゃん」のお話など、全部で9冊の絵本が世に送り出されています。

島田さんの絵本を読むと、キャラクターはもちろん、インテリアや雑貨にいたるまで、明るく洗練された色づかいで細密画のようにていねいに描かれています。「できるだけ、自分の普段の暮らしの延長のようなお話が描きたい」と島田さん自身がおっしゃっていますが、絵本の中にある不思議な形の小物たちは、絵本に登場するさまざまな動物たちの生活に、ぴったりとフィットしていて、登場人物たちの暮らしぶりが感じられます。

また、メインキャラクターだけでなく、サブキャラクターもいきいきと描かれ、絵本のすみっこで、メインストーリーとは別に、ちいさなお話が生まれていることもあります。また、いろいろな絵本の世界がつながっていて、別の絵本のキャラクターがひょっこり登場していることもあります。何度読んでも新しい発見があり、絵本を開くのがどんどん楽しくなってくるのです。



▲『ぶーちゃんとおにいちゃん』白泉社 ©Yuka Shimada / Ojigi Bunny Inc. 2004

島田さんは東京生まれです。小さい頃は体が弱くて、人見知りでしたが、絵を描くことが大好きだったそうです。お腹が減つたら、プリンやパンの絵を描いてまぎらわせたなどのエピソードも。

東京デザイン専門学校グラフィックデザイン科を卒業後、デザイン事務所に勤務し、パッケージデザインの仕事をなどを経て、フリーになりました。絵本ワークショップ在籍中に考

こうした島田さんの遊び心にいち早く気付くのは、まだ文字が読めない赤ちゃんのお子さんが多いためあります。大人は文字を読み、子どもは絵を「読む」のでしょうか。本当にいろいろな楽しみ方が出来る絵本だと思います。

遊び心のつまつた島田さんの絵本を見ていると、キャラクターがまるで身近にいるような親しみを感じ、どこかでつながっている島田さんの絵本世界についても想像が膨らんできます。文学で大切な想像力を刺激する島田さんの絵本は、文学に親しむ入り口としても優れた作品です。

思っています！

（学芸課／永橋楨子）

本展は、企画展示室でのメイン展示と、体験型展示などを盛り込んだロビーでの展示にわかれています。

メイン展示では、2014年にデビュー20周年をむかえた島田ゆかさんのすべての絵本9作品から原画120点と、デビュー20周年記念原画展のための「あの日からずっと」といっしょ、「バムとケロ」シリーズ出版20周年を記念したこれからもずっといっしょ」の描き下ろし原画2点を紹介します。息を飲むほど美しい原画は必見です！

また、ロビーでは、バムとケロのおおきなぬいぐるみと写真撮影できるフォトコーナーや、参加型展示「ありがとう」メッセージカードなど、多彩な展示をご用意しております。

子どもから大人まで、年齢を問わず読者を魅了してきた島田さんの絵本の世界。親子三代で島田さんの絵本に親しんでいるという方もいるほど、長い間変わらず愛され続けています。

島田ゆか絵本原画展

デビュー20周年記念

関連イベント

■オープニングイベント 島田ゆかさんサイン会■

日時：2016年7月9日(土)、10日(日) 各日ともに11時開始～

ようこそ、島田さんと絵本世界のなかまたち！ 展覧会のオープニングを記念して、バムやケロたちの生みの親、島田さんが高知に来るよ♪

場所：高知県立文学館1階ホール 参加費：**当日の観覧券**が必要となります。

サイン会の申し込み方法：9日・10日ともに当日、島田さんの書籍を購入されたお客様を対象に、午前9時からサイン会の参加整理券を配布します(1人1枚、1冊限り)。

定員になり次第、配布終了となりますのでご了承ください。

各日とも
先着
100名様

※写真撮影等はできませんのでご了承ください。

■クイズイベント■ 島田さんの作品に関するクイズに挑戦！全問正解したらプレゼントも♪

・日時：2016年7月16日(土)、23日(土)、30日(土)
8月6日(土)、20日(土)、27日(土)
9月3日(土)、10日(土)、17日(土)

各日とも
9時～16時

・場所：高知県立文学館2階企画展示室入口
・参加費：**当日の観覧券**が必要となります。

・申込：不要(当日、直接会場までお越しください)

■ワークショップ「かばんをつくろう！」■

ガラゴもびっくりのすてきなかばんを作ろう☆

・日時：2016年7月24日(日)、8月14日(日)、9月4日(日)
各日とも 14時～

・場所：高知県立文学館1階ホール
・参加費：**材料費500円+当日観覧券**が必要です。
・申込：電話または受付にて事前申し込み。(各日とも先着50名)

※画像は
イメージ
です。



■ワークショップ「モビールを作ろう！」■

『バムとケロのそらのたび』をイメージしたモビール作りです♪

・日時：2016年7月17日(日)、18日(月・祝)、31日(日)
8月7日(日)、28日(日)、29日(月)、30日(火)
9月11日(日)、18日(日)

場所：高知県立文学館1階 こどものぶんがく室(各日とも①10時～、②14時～)

参加費：**材料費300円+当日観覧券**が必要となります。

申込：電話または受付にて事前申し込み。(各回とも先着20名)

■展示解説

毎週土曜日には、担当者による展示解説を開催！

会期中
毎週土曜日
午後1時半～
(約20分程度)

参加費：要当日観覧券
申込：不要。
直接会場にお越し下さい。

他にも体験型のコーナーや、素敵なおもちゃや、ファイナルイベントなど、多彩な企画を用意してお待ちしています。

トピックス

教育普及事業の充実について

博物館施設の基本的役割は「収集、保存、研究、展示、教育普及」です。その中でも「教育普及」は自館の役割を広めるために欠かせない役割の一つです。教育普及は、資料(施設)の魅力をどのように伝えるか、学芸員の専門性と利用者のニーズを結びつけ、様々な角度から魅力を伝える役割です。

現在、文学館の教育普及活動事業は

- ① 文学講座
- ② 児童生徒文学作品朗読コンクール
- ③ 民間サークル参画「語りと紙芝居の会」
- ④ カルチャーサポーター事業「文学館朗読の会」
- ⑤ 出版、広報

「近世土佐文学研究会」「紙芝居普及活動」「おはなしキャラバン」など

「おはなしキャラバン」は、高知市立文学館にて開催される定期的なイベントで、毎月異なるテーマで読み聞かせや工作などを通じて、子供たちに読み物の楽しさを伝えています。

「鼓笛隊演奏(くるみ幼稚園)」は、高知市立文学館にて開催される定期的なイベントで、毎月異なるテーマで読み聞かせや工作などを通じて、子供たちに読み物の楽しさを伝えています。

「みんなでジャッキー!」は、高知市立文学館にて開催される定期的なイベントで、毎月異なるテーマで読み聞かせや工作などを通じて、子供たちに読み物の楽しさを伝えています。

「遠足での団体観覧」は、高知市立文学館にて開催される定期的なイベントで、毎月異なるテーマで読み聞かせや工作などを通じて、子供たちに読み物の楽しさを伝えています。

「高知で石ッコ体験」は、高知市立文学館にて開催される定期的なイベントで、毎月異なるテーマで読み聞かせや工作などを通じて、子供たちに読み物の楽しさを伝えています。

博物館では「生涯学習の一環として」「子どもの教育のため」の回答割合が第1位であり、「学習」を主な目的としています。一方、美術館は「身近な存在とするために最も多く回答が寄せられています。(※注)

では、文学館の場合、どのような教育普及事業に取り組んでいくことが求められるのでしょうか。他県の文学館ではどのような活動を行っているのか調べたところ、文学賞、ワークショップ、教師向け学習会のほか、小学校の国語の授業と連携した展示のほか、随時企画展とも連動した「ことば」に関するイベントをしています。中でも私が注目しているのは、野外へ出かけるプログラムです。一見文学と関係ないようでも、体験を言葉で表現する活動を通して、ことばの力と想像力を育てることがあります。

「文学館的言語体験」になっています。現在行っている児童生徒文学作品朗読コンクールのよう、「ことばで「表現する」活動とあわせて、実施していく」と考えています。

(注:参考「Life Design REPORT 2006.3~4」「美術館・博物館の教育普及活動について」的場康子)

(学芸課／谷岡真衣)

平成28年度第19回児童生徒 文学作品朗読コンクールの お知らせ

高知県立文学館では、

「第19回児童生徒文学作品朗読コンクール県審査」を平成28年11月13日(日)午後1時より、文学館1階ホールにて行います。

全国的にも珍しい全県を対象とした小中学生の朗読のコンクールです。今年の特別講師は『ニルスのふしぎな旅』をはじめ、北欧の児童書を数々翻訳された菱木晃子先生を予定しています。なお、11月からは「ことものぶんがく室」「スウェーデン児童文学パネル展」も開催していますので、お楽しみに。

朗読コンクールが高知県教育委員会と連携して、高知県教育長賞を設けて4年目になりました。今後も、朗読コンクールが子どもたちのことばの世界を広げるお役に立てればと考えております。審査会、公演会は入場無料となっておりますので、高知の子どもたちの日々の努力の成果を、ぜひ各会場で御覧ください。

(学芸課／谷岡真衣)



おはなしキャラバン

鼓笛隊演奏(くるみ幼稚園)

みんなでジャッキー! たいそう

遠足での団体観覧

高知で石ッコ体験

◆地区審査(公開)

8月17日(水)午前10時30分

西部会場

(大方あかつき館レクチャーホール)

8月19日(金)午前9時

高知会場(文学館1階ホール)

8月22日(月)午前10時

東部会場

(田野町ふれあいセンター多目的会議室)

◆県審査(公開)

表彰式・記念講演会があります。

**会場:高知県立文学館ホール
日時:11月13日(日)午後1時~**

お問い合わせは朗読コンクール担当まで
(TEL: 088-822-0231)

吉井勇の渓鬼荘今昔——80年の風雪をきさんで——

猪野 瞳

▲葦生峡谷の物部川

物部川沿いのひなびた峡谷集落の猪野々を、世にひろげうかび上らせたのは吉井勇だつた。漂泊の旅をつづけ、ふらりと土佐へやつてきた。この山峡へ渓鬼荘をつくりこもつた。昭和9年のことである。

ここで歌集「人間経」「天彦」に落魄の日々をきざみこんで再生をはかつた。物部川の切り立つ断崖の底を深くえぐつて流れくだる激流の瀬音が、はい上つてくる猪野々温泉のとなりだつた。秘境だつた。

そこへ六畳、四畳半、萱ぶき、雨戸障子の簡素な移築の庵をたてた。まわりには竹が生え風にざわめいた。ここが再生の山峡の里で「ひとつの草蘆を作りて渓鬼荘と名づけぬ。阿蘭若ならぬこの庵に、何を思ふとてか籠りゐにけむ」と「天彦」にかいた地だつた。阿蘭若とは修行するに適した閑静な土地、寺も意味した。

物部川の鉤金渡舟うちわたり安岡巡査きたりけるかも

素生しらべにやつてくる巡查をかいしたものだが、住みついたものの土地の人には異邦人だつた。

今では物部川も永瀬、吉野、杉田と三つのダムと発電所ができ、両岸と川底を削り流れた急流の面影はない。筏と平田舟が下る名所でもあつた。

先日猪野々へ行つてみた。県外ナンバー車が数台、吉井勇記念館前にきていた。やはり遠くからくる人もいるのか。物部川をまたぐ高架の鉄橋から見おろす両岸は切りたつていて、川底からは瀬音がはい上つてくるように思えた。渓鬼荘も80年をこえて吉井勇とともに人を呼ぶ力をもつているのかと思つたりした。

吉井勇が去つてからも渓鬼荘は残り、戦中、戦後と吉井勇にひかれてたずねてくる人たちがいた。数日泊りこんで心をいやしていく人たちだつた。

いまこの渓鬼荘は、近年開館の吉井勇記念館のとなりへ移築され、文化庁の有形文化財として、そのたたずまいを残している。ぼくが移築前の渓鬼荘をたずねたのは30年ばかり前になろうか。猪野々温泉の下段にあつた。

雨戸を開けてもらうと二間つづきに囲炉裏があり、周囲をかこむ木と竹が風にざわめいた。すぐ下には切り立つた物部川の断崖があり、吉井勇もここへくるには対岸の在所から川へ降り、水流を鉄鎖でたぐる渡し舟を使い崖を登らねばならなかつた。

『しばてん』現代文学選 —寄贈資料から—

『しばてん』現代文学選

田岡典夫著 富国出版社刊
1947(昭和22)年2月
93頁 文庫判
▼横山隆二氏寄贈



受贈報告(平成28年4月～平成28年5月)敬称略
田中貢太郎名作選 小泉八雲・田中貢太郎著 薫照芳訳
寂天文化事業股份有限公司刊
▼高橋正・高知の近代文学を掘る 高橋正著 カタオカ印刷刊
▼鈴木健司・宮沢賢治 幻想空間の構造 鈴木健司編
蒼丘書林刊他

▼田舎数馬・谷崎潤一郎と芥川龍之介「表現」の時代
—田舎数馬著 翰林書房刊
▼横矢幹雄・時空の一粒 黒田真矢著 幻冬舎メディアコンサルティング刊
▼木村和夫・萩原朔太郎 周辺と本質を求めて 木村和夫著 沖積舍刊
▼近藤栄治・俳句のトボス—光と影 近藤栄治著
沖積舍刊
▼日本現代詩人会・詩集 零余子回報 森本孝徳著
思潮社刊他
▼ちゅうでん教育振興財団・ショクパンのワルツ
ながすみつき作・吉田尚令絵 フレーベル館刊
▼横田晴光・うばかわ姫 越水利江子著 白泉社刊他

詳しく紹介し、その悪戯を「なんとなく大らかで不器用なもの」と述べ、消えゆく郷土の小妖怪への愛着を窺わせています。

寄贈者・横山隆二氏は、漫画「フクちゃん」の作者として知られる横山隆一のご次男。田岡と隆一は昭和初期から親しく交流。本書も田岡から隆一に贈られたもので、隆一氏からは、1946(昭和21)年に田岡作・隆一画で「高知新聞」に連載した小説「絵巻」(スクラップ)の他、隆一が鎌倉で親交を結んだ里見弾(とん)久米正雄らの写真等、貴重な資料の数々をご寄贈いただきました。

本書跋文には、文壇に出る際に田中貢太郎や井伏鱒二、菊池寛らの助力があつたことが丹念に織られ、写真的鎌倉文士たちはまた和氣藹々と寛いだ表情を見せており、古き良き時代を感じさせる資料群です。

常設展「虫がね」

シリーズで、変わる
常設展示をご紹介！

展示作家紹介 坂崎紫瀬

高知県立文学館では、いつ来ても新しい発見を行っています。今年度は「自由民権」コーナー・坂崎紫瀬「反骨の大衆文学」コーナー・黒岩涙香、「現代の文学」コーナー・小山いと子を新たにご紹介しています。

坂崎紫瀬は1853(嘉永6)年、藩医の子として江戸藩邸に生まれた民権家、新聞記者、伝記作家。本名斌。藩校致道館に学び、16歳で素読席句読師補助を任されるなど、早くから頭角を現し、信州松本の裁判所判事、民権講釈師等、多彩な経験を持つユニークな人物です。紫瀬は生涯において十数社の新聞社を渡り歩き、編集、論説、小説と幅広く執筆。1880(明治13)年には、創刊された「高知新聞」の編集長となり、自由民権運動を推進しますが、翌年末、高知県での政談演説を禁じられます。これに対し紫瀬は民権講釈一座を組織し、座長となつて興行。馬鹿林鈍翁を名乗り講釈を行なうも不敬罪に問われ、禁固刑となります。この入獄前後に書かれたのが、坂本龍馬を描いた初の小説「汗血千里の駒」で、「土陽新聞」に連載され、好評を博しました。本作は龍馬が広く知られる契機となり、後の小説にも長く影響を与えていました。

その後、紫瀬は歴史家・伝記作家として才能を発揮。「勝伯事蹟開城始末」「陸奥宗光」「山内容堂伝記」「鯨海馳侯」他、晩年に「維新士佐勤王史」の大著を遺し、還暦を迎えた1913(大正2)年、東京で死去しました。

今回の展示では、「汗血千里の駒」や山内容堂書簡等の当館所蔵資料の他、高知県立図書館のご協力を得て、同館が所蔵する資料も展示。同館には、紫瀬のご遺族から寄贈された坂崎

文庫と呼ばれる資料群があり、漢詩稿「紫瀬一百詩初稿」や、坂崎家による覚書帳「故坂崎斌病中見舞客並会葬者控」等の資料をお借りしてご紹介しています。会葬者には、板垣退助、田中光顯他の政治家や、文人・大町芳衛(よしひえ)、桂月(けいげつ)等、高知県が輩出した多士済々の名が見え、紫瀬の交流の広さを感じさせます。

来年は大政奉還150年、再来年は明治維新150年に当たり、高知県では歴史を中心とした博覧会「志国高知 幕末維新博～時代は土佐の山間より～」の開催が予定されています。同時代を生き、土佐の歴史や人物を世に知らしめた坂崎紫瀬にもぜひご注目いただければ幸いです。(学芸課／小松路代)



▲展示風景

建物の中から、古い教科書などとともに童謡や童話を収録した冊子が発見されました。手書きのガリ版刷りであり、綿糸で製本された手作りの冊子です。作者は、プロレタリア詩人楳村浩(本名吉田豊道)。彼が小学校4年生の時に書いたものでした。

楳村は、幼少の頃から神童と言われ、10歳の時には、来高された久邇宮殿下の前で御前講義を行ったという優秀な人物です。26歳という若さでこの世を去っていますが、プロレタリア文学史には、稟然とその名が刻まれています。

宗石〇〇(解説不明)と所蔵者の名前が書いてありますが、どのような経緯で彼の手に渡ったかは定かではありません。絵は同級生の高橋正人君で、「二人共大の仲良しで吉田君が文をつくり、高橋君が絵を描いて、時々こんな雑誌を発行します。」と書かれています。内容につきましては、次回、詳しくご紹介したいと思いますので、お楽しみに。

(学芸課長／津田加須子)

トピックス



館長室から 文芸は実人生の地理歴史

元吉 喜志男

「文芸は実人生の地理歴史」とは、文豪・菊池寛の言葉です。このたび手掛けた展覧会を通じて、この言葉と改めて向き合う時間を持ったように思えます。この展覧会は、高知に拠点を置いて、ふるさと土佐の四季の移ろい、全国各地の美しい風景、さらには地球規模のスケールで世界遺産など様々な風景を幻想的に撮り続けている写真作家の作品と古今東西の文学作品の一節などを重ねながら、双方の作品をより深く鑑賞していただきたいとの思いから、双方の作品をより深く鑑賞していただきたいとの思いから始めたものでした。

ひとりの人間に与えられた人生の時間は有限です。しかも、どんな人にも1日は平等に24時間しか与えられていません。したがって、その限られた時間の中で体験できることにも限りがあります。

今回の取り組みの中で、冒頭の菊池寛の言葉を引用している人物に出会いました。

『あらすじで読む日本の名著』全3巻の編著者で、テレビ番組の「世界一受けたい授業」に講師として出演されたこともある私立狭山ヶ丘高等学校校長(この書籍が刊行された当時の掲載による)・小川義男氏です。小川氏は、「若者に文学が忘れられて久しい。」で始まる前著・第1巻の「はじめに」の中で、文学の効用と名作鳥瞰図の編集に至った思いを述べています。「人は文学作品に触れる中で自らの小さな経験を超えて、人生に対する思いを深めることができる。同時に私は、文学作品は言語の内容を深めるものであるとも思う。互いに、同じ作品を読んでいるという文化環境が、会話を密度濃く、内容の深いものにしていくのである。」と…。

「大学文系不要論」という言葉すらも耳にする昨今、ふと立ち止まって「文芸の役割とは…?」を考えさせられた次第です。

展覽会レポート

桐野伴秋の世界と文学の旅

土佐・日本そして世界へ

「一瞬の中に永遠を宿す」をテーマに、独自の手法により美しい地球の姿や日本の情景を後世に伝えようと活動している桐野伴秋氏。彼の作品を文学の世界と重ねた展覧会「桐野伴秋の世界と文学の旅」は、多くのお客様からご好評いただいています。

「写真と文学をどの様に組み合わせるのか」と思つていたが素晴らしい内容でした。会期中にまたゆっくり観に来ます」「案内したお客様やアンケートからは、この様な嬉しいお声をよく頂戴します。

2階へ上がる階段の正面には、美しい朝焼けの桂浜の風景写真が出迎えます。階段を上つた口ビーでは「目に見えないものを撮る」という桐野氏の写真哲学とも言える「光」「水」



▲美の幻風景：作品によせる思いとキーワード



▲日本列島の表情：文学と文学館をめぐる旅とともに



▲展示室入口:奈良・又兵衛桜に西行の歌を添えて



▲日本の景：47都道府県を舞台にした文学作品も紹介



▲月と日本人の感性：土佐典具帖紙を使った演出も…

「風」「祈り」「宇宙」のキーワードに見合う作品をタペストリー風に配置。歩を進めると全国各地を撮した16の作品群に囲まれた日本列島の地図の大きなパネルがあり、文学の旅をイメージした各エリアを代表する文豪の顔写真と有名な文章の一節や名言とともに、全国各地の主な文学館情報も紹介しています。ローケース内には、高知新聞での桐野作品の連載記事や、「家庭画報」の冒頭を飾った「幽玄の情景」。日本人としては9人目の起用といいうキヤノン企業カレンダー世界版(2013年)や、ミラノ万博に出展した折のリーフレット愛用のカメラなども展示しています。

そんなロビーを過ぎ、いよいよ展示室内へ入口には、青色のLEDの光の中に奈良県室

陀市の又兵衛桜の豪華な雄姿が西行法師の歌ともに鮮やかに浮かび上がっています。入口を左に折ると、いよいよ「土佐・日本そして世界へ」のサブタイトルにも象徴されるメイン展示と対面。まず、『土佐の景』のコーナーでは、高知を代表する桂浜、四万十川、足摺岬など桐野流の幻風景作品に大町桂月、上林暁、田宮虎彦といった高知ゆかりの作家の文章が彩りを添えています。次の『日本の景』のコーナーでは、富士山と太宰治の『富嶽百景』の一節、岩手山と石川啄木の歌、雪の白川郷と吉野弘の詩などが融合しています。日本全国47都道府県では、北海道から沖縄県まで全国

月や桜のコーナーでは、それぞれの作品の
風情を想起させる和歌や俳句を添えたり、土
佐典具帖紙を使った演出。この他、鏡の間や
桐野氏の名前を一躍有名にした写真集『セド
ナ・奇跡の大地』からセレクトされた作品を
スクリーンに映し出し、約12分間程の聖地・
セドナの旅も楽しめます。

見どころ満載のこの展覧会は、リピーター
として何度も来られる方も少なくありません。
さらに展示会の余韻に浸りたい方には、写
真集やポストカードなどの桐野作品グッズを
1階のミュージアムショップで取りそろえて
います。

6月19日(日)まで開催しています。是非
お越し下さい。
(館長／元吉喜志男)

『世界の景』のコーナーでは、ヨーロッパやモーリシャスといった地球規模での作品が並びます。文学作品との関係では、ミコノス島とギリシア独立に関わったバイロンの詩、フィレンツェとこの地を旅したアンドレ・ジッドの『ジッド日記』の一節などといった具合です。用や姿のコーナーでは、いろいろな作品の

企画展 案内

桐野伴秋の世界と文学の旅 ～土佐・日本そして世界へ～

4月29日(金・祝)～6月19日(日) 場所:企画展示室 観覧料:500円

写真作家・桐野伴秋氏。高知県に拠点を置き、“美の幻風景”をテーマに、県内、日本列島各地、さらには地球規模のスケールで独特の世界観を追求した作品はミラノ万博など国際的にも認められて来ています。美しい情趣豊かな作品群と文学作品の一節やご本人の言葉などを重ね、旅情豊かな「文学の旅」へと誘います。



桂浜心象/©KIRINO TOMOAKI

展覧会の紹介をしています！ 詳細は7ページをご覧ください。

～デビュー20周年記念～島田ゆか絵本原画展

7月9日(土)～9月19日(月・祝) 場所:企画展示室 観覧料:500円

カナダ在住の絵本作家・島田ゆかさんは、人気の「バムとケロ」シリーズをはじめ、魅力的な絵本を世に送り出しています。

島田さんの絵本は、画面の隅々まで驚くほどていねいに描き込まれ、何度読んでも新しい発見があり、子どもから大人まで大きな支持を得ています。

島田さんの素敵な原画を通じて、絵本の世界をお楽しみください。



「あの日からずっといっしょ」

©Yuka Shimada/Ojigi Bunny Inc. 2014

展覧会の紹介をしています！ 詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

計画進行中！お楽しみに

源氏物語展～雅のDNA～

平成28年10月1日(土)～平成29年1月9日(月・祝) 場所:企画展示室 観覧料:500円

※館内メンテナンスのため、6月20日(月)～7月5日(火)まで臨時休館いたします。7月6日(水)より通常開館いたします。

高知県立文学館、20歳に向けて少しお色直します。

当館が開館したのは平成9年(1997)11月3日。来年度(平成29年度)は、開館から20年(20歳)を迎える記念すべき年となります。20歳を迎えるにあたり、少しずつ昨年度から施設のお色直し(改修・修繕)を行っているところです。

今回は、お客様がお休みになる休息コーナーをお色直しする予定です。お客様にゆっくりとくつろいでいただくために、土佐の木材を使った空間に変わります。ぜひお楽しみに！

少し長い休館ですが、このほかに2階展示室の全室燻蒸作業や、館の設備の更新作業を行い、お客様になお一層快適に楽しんでいただける施設として、20歳を迎える準備をしていきます。

休館中はご迷惑・ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解のほどお願ひいたします。(副館長／猪野)



▲お色直し前の休憩コーナー

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時（入館は、午後4時半まで）

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 一般360円 企画展はそれぞれ異なります。

20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、

高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、

精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳および被爆者

健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

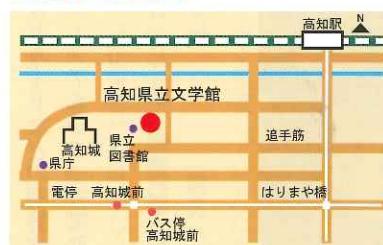
茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail:bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/>

交通のご案内



●高知龍馬空港より空港連絡バスく県庁前行

「高知城前」下車、北へ徒歩5分

●JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)

●路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分

●バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館

〒780-0850

高知市丸ノ内1丁目1-20

電話 088-822-0231

FAX 088-871-7857

フェイスブック 好評配信中！



[Facebook: https://www.facebook.com/kochi.literary.museum](https://www.facebook.com/kochi.literary.museum)